

建学の精神	高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する。	
教育の理念	教育の理念「あすなろう」 あすなろ（翌檜）とは「明日はひのきになろう」の意。学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を、永原学園は全力で導いています。常に前向きに、ひたむきに向上する、努力精励の精神が創立者の理念として貫かれているのです。	
学園方針	(1) 建学の精神・教育理念に基づく魅力ある学びの場の構築 (2) 学生・園児一人一人の学びの成長・キャリア支援を担保する内部質保証の確立 (3) 地方創生・地域活性化を牽引する産官学の連携とそれを支える教育研究の推進 (4) 定員充足のためのブランド力強化と戦略的な募集広報活動の推進 (5) 人が学んで輝き、共感し、自走する組織づくり (6) 新時代に即応した成長戦略の推進と安定した経営基盤の強化	
教育目的	建学の精神を基本として、よき社会人としての教養を高め、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成する。(学則 第1条)	
	地域生活支援学科	幼児保育学科
	地域生活者の生活の質の向上を目指した支援を目的に、食と栄養・介護と福祉・多文化と国際化に関する専門知識と実践技術を修得して地域への貢献と活性化の活動ができる人材を養成し、そのための教育研究活動を行う。(学則 第3条)	保育に関する知識と技術を備えた高い実践力を持つ保育者の養成と豊かな人間性を兼ね備えた人材の養成を目指し、そのための教育研究活動を行う。(学則 第3条)

受 入 れ 方 針 （ ア ド ミ ッ シ ョ ン ポ リ シ ー）	西九州大学短期大学部の教育の理念・目標に則り、各学科の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜を実施し、学力の3要素をはじめ、大学教育を受けるにふさわしい学力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜する。 1) 高等教育レベルの基礎的・基本的な学力を有している。 2) 物事に関心を持ち、新たな発見や課題解決を進めるために必要な判断力やコミュニケーション力を有している。 3) 主体的に学習に取り組む姿勢、多様な人々と協働して学ぶ態度を有している。 4) 以上を基に、将来社会人職業者として地域社会に意欲的に貢献し、人間性をより高めていくことを志している。	
	地域生活支援学科	幼児保育学科
	地域生活支援学科 専門的かつ分野横断的な知識と技術を活用して、多様な生活意識を持った人々への生活支援および地域の活性化にも貢献できる人材を養成するために、高等学校教育相当の学力、特に学修の土台となる国語（日本語）の読解力と記述力を求めます。また人々との交流をととして、多様な意見をくみ取りながら主体性を持って協調的に行動する力を有していることを期待します。さらに次のような意欲、能力、適性を持った学生を受け入れることを基本方針とします。 ●食健康コース ①食への知識や技術を磨くことに意欲を持ち、努力を惜しまない人。 ②食べることが好きで、美味しいものを作ることに熱意を持っている人。 ③食の大切さや食育の重要性をととして、健康づくりを支援したい人。 ④食を通して人々と地域の役に立ちたいとの強い意志を持ち、多彩な食の現場で活躍したい人。 ●介護福祉コース ①人が好きで、介護や福祉に関心がある人。 ②人の役に立つ仕事、人に喜んでもらえる仕事を目指す人。 ③気持ちが優しく、誠実な人。 ④何事にも向上心を持ち一生懸命取り組める人。 ●多文化コース ①人々の生活や文化の多様性を柔軟に受け止めることができる人。 ②国内外のさまざまな文化やことばに興味を持ち、外国語でのコミュニケーションをとることが好きな人。 ③観光や旅行などのグローバルなビジネスに興味を持ち、地域の発展のために貢献したい人。 ④海外留学などを通し、外国の若者と一緒に学ぶことに興味を持ち、国際人として世界に羽ばたきたい人。 〈高校時代に身につけておくことが望ましいこと〉 本学科で学ぶ学生は、コミュニケーションに必要とされる幅広い教養と、何事にも主体的に取り組む姿勢及び人間性を身に付けている事、即ち高等学校までの教科及び課外活動などに積極的に取り組んでいる事が期待されます。教科の中では、特にコミュニケーションの基本となる「国語（日本語）」のほか、自然界の仕組みを学ぶ「理科（生物・化学）」、人間社会の在り方を学ぶ「社会（歴史・公民）」、心と身体の健康づくりなどについて学ぶ「保健体育」などを学修していることを望みます。	幼児保育学科 幼児保育学科では、将来、幼稚園、保育園、認定こども園や福祉施設などで教員および保育士として働く人材を育成することを目的としています。そのために次のような意欲、能力、適性を持った学生を受け入れることを基本方針とします。 1) 幼児教育・保育について学ぶために必要な基礎的学力を身に付けている人。 2) 子どもを取り巻く環境や育ちに関する課題に関心を持ち、自分なりの考えを表現することができる人。 3) 思いやりの気持ちをもって、多様な人々と主体的・協働的に学び合うことができる人。 4) 幼児教育・保育を通して、地域社会に貢献しようとする意欲を持っている人。 〈高校時代に身につけておくことが望ましいこと〉 本学科で学ぶ前に、特に次のような能力や態度を有することを期待します。 ・文章の読解力や自分自身の考えを適切に表現する文章力（国語） ・保育に求められる基礎的実技能力（音楽、美術、体育） ・ボランティア活動などを通して、地域社会と積極的に関わろうとする態度。 ・相手に不快感を与えず、自分も気持ちよく生活するためのルールやマナーを大切にする姿勢。

短期大学士課程における教育課程編成の方針

1. 西九州大学短期大学部は、学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。
2. 西九州大学短期大学部は、教育課程の編成に当たっては、学科の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、確かな人間力を涵養するよう適切に配慮する。

短期大学士課程における教育課程運営の方針

1. 西九州大学短期大学部は「学位（短期大学士）授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバス等で「学位（短期大学士）授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法を理解しやすいように配慮する。
2. 西九州大学短期大学部は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外の学修機会に加え、学外での体験的学修を通じ、諸課題に積極的に挑戦させる。
3. 西九州大学短期大学部は、学生が自己の到達度を自ら判断し、必要な科目を自ら選択し、履修計画を作成できるように教育課程を構成する。
4. 西九州大学短期大学部は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行う。

教育課程の編成及び運営の方針に基づき、次の成績評価の方針を設ける。

《アカデミックアセスメント・ポリシー》

各教科目において、到達目標に定める学修成果に対して評価の観点を明確にし、学生の成績評価を示す。

各教科目では学修に対する測定設計（手段、筆記試験、技能試験、パフォーマンス評価、ルーブリックなどの、真正の評価を含む）を行う。

- ①成績評価は、【態度・志向性】・【知識・理解】・【技能・表現】・【行動・経験・創造的思考力】の領域区分にある到達目標に記される学修成果として評価を行う。
- ②それぞれの教育内容に対応する学修成果ついて、知識の次元に類別（例えば、非認知的成果・知識成果・技能成果・認知的成果に類型）し、学修成果の到達基準（例えば、記憶・理解・応用・分析・評価・創造の段階的レベル）を設定し、各学修内容の測定法（例えば、筆記試験・技能試験・レポート・質疑応答・パフォーマンス・ルーブリック）を明確にして評価を行う。
- ③各学科の学士課程教育においては、各種専門資格・免許の養成に対して外部指標を設けアセスメントテスト等を実施し評価を行う。

教育課程の編成及び運営の方針に基づき、次の学修成果の評価並びに改善の方針を設ける。

《エバリュエーション（評価・改善）ポリシー》

【評価】学修成果の評価結果を本人に適切にフィードバックし、その後の改善や成長につなげていく。

【改善】学修成果の評価結果は、直接的に関係するものとして、カリキュラム、コース内容または教育の改善、そして学修成果を改善する可能性がある変更役に役立つ。

教育課程方針 (カリキュラムポリシー)	地域生活支援学科	幼児保育学科
	「食」・「福祉」・「多文化」の3つの生活分野と「いのち」・「くらし」・「人生」の3つの生活支援レベルを組み合わせた知識と技術を体系的に修得できるカリキュラムを編成する。 ①共通教育科目では、建学の精神「あすなろう」を中核とし、豊かな教養と人間性の育成を図る。 ②専門教育科目では、各コースに特徴的な専門的知識と技術を中核とし、コース間の横断的履修を可能とするカリキュラムも組む。 ●食健康コース ③食と栄養に係る分野で、「社会生活と健康」・「人体の構造と機能」・「食品と衛生」・「栄養と健康」・「栄養の指導」・「給食の運営」の6領域における科目を重視し、国家免許「栄養士」の資格取得のための専門科目を設ける。 ④食にかかわる様々な職場で必要とされる人材育成のための科目を設ける。 ●介護福祉コース ③福祉に係る分野で「介護」の科目を「人間」「社会」「心」「体」「医療」の分野でバックアップし、国家資格「介護福祉士」の資格取得のための専門科目を設けると共に、より現場で必要とされる人材となるための教科を設ける。 ●多文化コース ③多文化複合領域に係る分野において、「外国語」・「観光と旅行」・「ビジネス」・「ホスピタリティ」・「コミュニケーション」の科目を重視し、食と福祉分野と連携した実践的な学びと国際的視点を持って地域に貢献し活動できるグローバル人材を目指した科目を設ける。	学位授与に必要な能力を習得するために、教育課程を大きく「共通教育科目」と「専門教育科目」に分けて編成・実施する。 ①共通教育科目では、建学の精神「あすなろう」を中核とし、豊かな教養と人間性の育成を図る。 ②専門教育科目では、「保育の理念」「子どもの権利と福祉」「子どもの心と身体の発達」「保護者・家庭の支援」、「保育の内容と方法」、「情報・ICT」「保育の実践」「専門研究」の8分野を構成し、理論と実践をバランス良く学ぶことができるよう科目を配置する。 ③入学後、早い段階から実習を経験する等、理論と実践を繰り返しながら、自らを振り返り、関心・意欲を高め、さらに学びを深められるよう、実習を中心に各科目の学修内容を有機的に関連させる。 ④個々の保育観や人間性を深められるよう、教育課程内外において学生の関心に応じて、選択学修ができるようにする。 ⑤子育て支援を核とした保育ニーズに対応する実践・体験型授業や、地域の保育課題をテーマとした専門研究を設け、保育の専門職として地域社会に目を向け、地域で活動する機会を用意する。

本学の建学の精神は「高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する」である。

この建学の精神（理念）のもと、本学では「①栄養・福祉・保育・教育、多文化理解・共生」に関する専門的知識・技能を有する人材を育成すること ②社会人としての汎用的能力の醸成を図りながら、生涯地域社会や国際社会においてグローバルに活躍できる人材を育成すること」を目標として掲げる。

これらの理念・目標を踏まえ、本学並びに幼児保育学科、地域生活支援学科の学位授与方針を次のように定める。

学位授与方針（ディプロマポリシー）	到達目標 I【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 ①自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。 ②自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。 ③主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。 ④社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 ⑤生涯にわたって自律・自立して学習できる。 II【教養ある専門職業人としての基礎力】 ①社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。 ・多文化・異文化に関する知識の理解。 ・人類文化、社会、自然に関する知識の理解。 ②専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。 ③上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。 III【社会人としての汎用的能力】 ①確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。 ②自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。 ③ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ④情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。 ⑤問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。 IV【地域生活を支援し、創造する力】 ①上記Ⅰ～Ⅲの態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。 ②地域での実践活動をもとに、上記Ⅰ～Ⅲの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。 ③上記Ⅰ～Ⅲの知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる。
	地域生活支援学科 幼児保育学科
	厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、学修成果（到達目標）の獲得をもって短期大学士（地域生活支援学）の学位を授与する。 ①知識と技術を相互に連携して、複合的に活用できる能力を身につけている。 ②グローバルな視点から地域生活者への支援ができ、国際人としての感性と素養を身につけている。 ●食健康コース ③食と栄養についての専門知識と技術を修得しており、食をとおして地域社会と人々の、今そして未来に貢献できる実践力・応用と創造力を身につけている。 ●介護福祉コース ③介護に関連する専門的知識と技術と共に、利用者本位、自立支援、人権擁護の視点を持ち、職業倫理を身につけ、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解している。さらに、地域・他職種と連携して要介護者への生活改善・QOL 向上のために支援・推進するコミュニケーション力、応用力、実践力を身につけている。 ●多文化コース ③生活全般を支援するための食と福祉と多文化にまたがる汎用的専門知識と技術を修得している。さらに、グローバルな視点を持って国際社会でも活躍できる応用力と実践能力を身につけている。 厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、学修成果（到達目標）の獲得をもって短期大学士（保育学）の学位を授与する。 ①幼児教育・保育に携わる為に必要な確かな知識や技能を修得している。 ②身に付けた知識や技能を活用し、保育に関する諸課題の解決に向けて取り組むことができる。 ③多様な人々と協働し、幼児教育・保育活動に主体的に臨む態度を身に付けている。 ④幼児教育・保育の専門職として、地域社会に貢献できる。

学位授与方針に基づき、幼児保育学科、地域生活支援学科に学修成果（到達目標）を次のように定める。

到達目標と学修成果

【共通】汎用的能力要素学修成果（到達目標）	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある社会人としての基礎力】 (知識・理解)	【社会人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
	1) <u>自己意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。</u> ①自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。 ②相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。	1) <u>人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解認識を深めることができる。</u> ①人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。	1) <u>日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。</u>	1) <u>物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。</u> ①物事に進んで取り組み行動することができる。 ②他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。
	2) <u>社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。</u> ①自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下での対応ができる。 ②社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞い対応ができる。	2) <u>社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解認識を深めることができる。</u> ①社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ②自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。	2) <u>自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。</u>	2) <u>目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。</u>
	3) <u>将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。</u> ①社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。 ②ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。 ③自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。	3) <u>将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義関連への理解を深めることができる。</u> ①生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。 ②職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。	3) <u>将来社会生活・職業生活に必要な基礎的技能を身につけ、問題を発見し解決することができる。</u> ①情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ②情報や知識を複眼的、論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。 ③問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 ④職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成、必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。	3) <u>獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。</u> ①経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ②これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。

	【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】 (態度・志向性)	【教養ある専門職業人としての基礎力】 (知識・理解)	【専門職業人としての汎用的能力】 (技能・表現)	【地域生活を支援し、創造する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【地域生活支援学科】 専門的能力要素学習成果(到達目標)	地域生活支援学科共通 1) 「食健康」と「介護福祉」と「多文化」に共通する分野について、興味を持って学修し、自ら進んで人々への生活支援のために活用できる。 ●食健康コース 2) 食と栄養を目指す者としての自立心と他者との協調性を持って主体的に考え取り組むことができる。 ①食と栄養に関する専門職域の仕事内容の理解ができています。 ②自分がどういった食の専門職・栄養士になりたいか目標を持つことができる。 ③約束を守る、規則を守る、時間を見ながら行動できなど自己管理能力が備わっている。 3) 健康と環境や社会に関心を持つことができる。 ①健康と環境に関する社会的問題に興味を持つことができる。 ②食物の栄養や食品の流通と消費について考えることができる。 ③食生活上の安全性の確保のあり方に関心を深めることができる。	地域生活支援学科共通 1) 地域の特性に応じた衣・食・住の生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野との連携ができる知識と技術がある。 ●食健康コース 2) 栄養と健康について専門領域の基本的理解ができています。 ①社会生活と健康、人体の構造と機能について理解ができています。 ②食品の栄養特性と衛生管理及び栄養の意義について理解ができています。 ③ライフステージ別栄養のあり方と各種疾病における基本的な食事療法について理解ができています。 3) 食の各分野の対象者特性に応じた食支援のねらいや内容、方法を理解している。 ①対象者の実態を把握し問題点を抽出できる。 ②健康や栄養に関する知識や技術を駆使して対象者に合わせて必要な情報を提供することができる。 ③対象者の状態に応じた食支援を考えることができる。	地域生活支援学科共通 1) どのような状況の変化にも対応できる食健康と介護福祉と多文化にわたる広範囲の知識と技能および柔軟な人間性を持っている。 ●食健康コース 2) 食の現場で求められる専門的技能の基本を身につけ多様な場面で展開できる。 ①基本的な調理技術が身についている。 ②旬の食材や季節感を大事にし、多様な場面に合わせた食事計画による給食の運営ができる。 ③対象者の健康や食生活の問題点を把握し、それらを解決するための方法を計画し実践できる。 3) 対象者の立場に立ち、対象者に応じた食支援(食指導)ができる。また、適切に食環境を整備できる。 ①対象者への話しかけや説明が適切にできる。 ②対象者の生活習慣や食習慣、食嗜好など様々な面を考慮して総合的に支援を展開できる。 ③対象者が健康的で安全な食生活を送るために適切に食環境を整備できる。	地域生活支援学科共通 1) 生活を科学的に分析・把握し生活全般を見渡す能力と、経験をもとにした創造的発想ができる能力をもっている。 ●食健康コース 2) 食育活動を通して地域貢献できる力を身につける。 ①学内外の食育活動に関心を持つことができる。 ②学内外の食育活動に積極的に参加できる。 ③ニーズに応じた食育活動を計画・実施できる。 3) 他者と信頼関係を築き、協働できる。 ①グループワークができる。 ②報告・連絡・相談ができる。 ③コミュニケーション力がある。

●介護福祉コース

- 2) 利用者本位のサービスを提供し、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。
- ①介護を必要とする人やその家族の心理を理解できる。
- ②保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。
- ③施設・在宅におけるチームアプローチの方法、報告・連絡・相談ができる。
- 3) 他者に共感でき、人権擁護の視点、職業倫理を身につけている。
- ①相手の立場を理解し共感・受容できる。
- ②人間に対する尊厳を保持し、自立（律）した生活を支える必要性を理解できる。
- ③介護福祉士としての職業倫理と権利擁護のしくみが理解できる。

●多文化コース

- 2) 地域文化を理解・継承しながら、多様な人々の幸せと生活向上に自律的に取り組むことができる。
- ①地域の人々と交流を積極的に図ることができる。
- ②人々の幸せとは何かを考えることができる。
- ③身に着けた人間力により成果を発表することができる。
- 3) 国際社会の推移を注意深く観察し、グローバル社会に積極的に参画できる人間性を有している。
- ①マスコミ等により社会の国際的動きを的確に理解することができる。
- ②国際情勢を客観的に分析することができる。
- ③自ら考え、分析した社会の動きを発表することができる。

●介護福祉コース

- 2) あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識・技術を修得している。
- ①生活の概念や自立に向けた生活支援の知識や技術を修得し、説明できる。
- ②介護に必要な医学的な知識や心理について理解できる。
- ③介護に関する社会保障（介護保険制度、障害者総合支援等）の施策について理解できる。
- ④ケアマネジメントのシステムについて理解できる。
- 3) 介護過程の意義と目的を理解し、利用者に適したアセスメントができる。
- ①アセスメントに際し、ICF、将来の予測を考察し、その根拠が説明できる。
- ②アセスメントに基づいた介護計画が立案できる。
- ③自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識や方法を理解できる。

●多文化コース

- 2) 世界に展開できる人間性を持った社会人として必要な体力、語学力（英語、ハングル語、中国語等）を身につけている。
- ①自分に合った外国語の学習方法を見つけることができる。
- ②海外からの学生や研究者に積極的に話しかけ、自分の意見を説明することができる。
- ③専門語を交えながら、留学生や訪問者に外国語で交流することができる。
- 3) 海外の国々や日本の文化を素直に理解し、認める社会人となるための情報を的確に収集・発信できる力を身につけている。
- ①我が国の文化の特徴を理解している。
- ②海外からの学生や訪問者から異なる文化を理解し、我が国の文化と比較することができる。
- ③我が国の文化の特異性を抽出し、外国語により説明することができる。

●介護福祉コース

- 2) 利用者の情報を収集・分析し、介護計画作成、実践、評価について理解できる。
- ①利用者と信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。
- ②介護過程の一連の流れを理解し、在宅と施設の介護過程の相違を説明できる。
- ③記録の必要性を理解し、的確な記録・記述ができる。
- 3) 利用者の生活状況に応じ、自立に向けた介護支援技術を修得し、実践できる。
- ①利用者の多様な生活場面における介護実践の方法を理解し、自助具・福祉用具を活用できる。
- ②行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことができる。
- ③医療的ケアに関する知識と技術を修得し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。

●多文化コース

- 2) 食と福祉の視点をもち、ホスピタリティ精神にあふれる生活支援ができるスキルを身につけている。
- ①我が国の食と福祉に関連するホスピタリティの特質を把握している。
- ②海外のホスピタリティとの比較を行い、おもてなしのスキルを高めることができる。
- ③本学への訪問者に適切なおもてなしができる。
- 3) 基礎語学力（英語、ハングル語、中国語、日本語等）を活かし、海外からの留学生、観光客、地域の人々と異文化交流ができる。
- ①自分で選択した語学学習方法により継続して基礎学力を身につけることができる。
- ②海外からの訪問者と積極的に会話することができる。
- ③地域の人々と海外からの訪問者の橋渡しができる。

●介護福祉コース

- 2) 介護福祉士の義務規定を理解し、権利擁護（アドボカシー）の視点や高い倫理性を持って行動できる。
- ①相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点を持って行動できる。
- ②利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。
- ③介護計画に沿った実施、評価ができる。
- 3) 他の職種の役割を理解し、チームに参画することができる。
- ①チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。
- ②介護福祉士としての意見を述べるができる。
- ③リーダーシップをとることができる。

●多文化コース

- 2) 地域の人々と積極的に交流し、地域の人々のニーズを的確に把握し、問題解決のための行動ができる。
- ①地域の人々との会話をする機会を積極的に設けることができる。
- ②地域の問題点を交流を通して発掘することができる。
- ③発掘した問題点を解決する方法を提案することができる。
- 3) 地域の人々や海外からの人々との交流により得られた文化、生活情報を分析し、次の行動指針にできる。
- ①海外からの訪問者とおして、文化、生活情報を得る努力をすることができる。
- ②異文化が共存できる環境について考えることができる。
- ③考えた環境を実社会で整合させて行動を起こすことができる。

	【保育者としての素養】 (態度・志向性)	【子どもを理解し指導・援助する力】 (知識・理解)	【保育を展開し評価する力】 (技能・表現)	【連携・協働する力】 (行動・経験・創造的思考力)
【幼児保育学科】 専門的能力要素学習成果(到達目標)	1) <u>教育的愛情と情熱を持ちあわせている。</u> 2) <u>関係法令を理解し、それらを遵守した保育活動を展開することができる。</u> 3) <u>成長のための意欲をもち、学び続けることができる。</u>	1) <u>子どもの特性や個性を把握することの重要性を理解し、その手法を身につけている。</u> 2) <u>子ども理解にもとづいて、個と集団に対する指導・援助をすることができる。</u> 3) <u>特別な支援を必要とする子どもの特性や発達を理解し、支援することができる。</u>	1) <u>要領・指針の理念と内容にもとづいて、保育の計画を立案することができる。</u> 2) <u>保育技術を用いて、子どもの実態に応じた保育を展開することができる。</u> 3) <u>保育を適切に評価して、計画の改善をおこなうことができる。</u>	1) <u>園組織へ参画する意識を持ち、任された職務を遂行することができる。</u> 2) <u>危機の未然防止と早期発見、危機を察知した際の迅速な対応ができる。</u> 3) <u>保護者や地域と積極的に関わり、連携・協働した対応をおこなうことができる。</u>